

「スポまち!表彰」を4年連続受賞



スポーツ庁が実施する「スポーツ・健康まちづくり」優良自治体表彰2025を久喜市が受賞しました。同賞はスポーツを活用したまちづくりに取り組む自治体のアイデアを表彰するもので、久喜市の受賞テーマは「買い物ついでに健康づくり!久喜市ピククルボール×商業施設プロジェクト」です。同賞の受賞は4年連続となり、全国有数の成果を挙げています。

市では今後もスポーツに親しむ機会を積極的に提供し、市民の皆さまの健康づくりを支えていきます。

飯ごう炊飯を体験しました



11月26日、清久小学校の5年生が飯ごう炊飯を体験しました。こどもたちは、ボーイスカウトの方から火のつけ方や炊飯の手順などを教わりながら、真剣な表情で取り組みました。炊いたお米は、こどもたち自身が田植えや稲刈りをしたものということもあり、自分たちで育て、炊き上げたお米は格別!おいしいご飯をみんなで楽しく味わいました。

川島真琴選手 表敬訪問およびスポーツ特別功労賞 授与



昨年11月に開催された「東京2025デフリンピック」に女子バスケットボールの日本代表選手として出場した川島真琴選手が、金メダル獲得の報告のため、12月15日に市長を表敬訪問しました。

川島選手は「4年後も金メダルを獲得するように頑張りたい」と、自身の新たな目標を力強く語りました。

また、この快挙を称え、12月20日にミニバスケットボール大会「ウインターカップ久喜2025」の開会式において川島選手に対し、久喜市より「スポーツ特別功労賞」、久喜市スポーツ協会より「スポーツ賞」が贈られました。さらに、市内各所に懸垂幕や横断幕を掲出しています。ぜひご覧ください。

久喜市公式動画チャンネルにて川島選手からのコメントを公開中!



久喜市にゆかりがあり、全国的に活躍されている方を紹介する「久喜の人じまん」。今回は、11月26日に開催された「第25回 商工会青年部全国大会 岩手大会」の主張発表大会において、全国の頂点である最優秀賞を受賞した、久喜市商工会青年部副部長・竹下学さんです(久喜市出身・在住)。

interview

「地域に資するような経済人に」

たけした まなぶ
竹下 学

Manabu Takeshita

ー全国最優秀賞、おめでとうございます。主張大会では、どのような内容を発表されたのですか。
竹下さん 私は読書が好きなのですが、小説などに登場する「〇〇青年部」といった存在は、主人公に同調圧力で攻める悪い団体として描かれることが多く、ずっと気になっていました。それを打破するために、実際には地域に対して良いことをやっているんだということを自己顕示していこうじゃないかと。それを「見えない昼間の月」になぞらえて、昼間の月から「地域を照らす太陽」になろう、という主張です。自己顕示によって市民の理解が深まり、受け入れていただけただけで自己肯定感も高まり、結果として部員増につながって地域の信頼を得た、ということのアピールしました。

ー他の団体の部員が減少傾向にある中で、久喜市商工会青年部は県内で最も多くの部員増加を達成したそうですね。増員のきっかけとなるような事業はあったのでしょうか。
竹下さん 本当にそうです。主張大会に向けた大きなタンクがあつて、私はただの「蛇口」。これまでの先輩や仲間が、部員の皆さんの大きなサポートがあつたのです。チームで勝ち取った、という印象でしょうか。
竹下さん 久喜は主張大会に対する方法論のようなものがしっかり確立されていて、その中で、部員の皆さんと一緒に必ず週1回集まって練習をしていました。部員の意見・アドバイスを取り入れ、試行錯誤を繰り返すという練習を半年続け、原稿も何度も練り直し、強弱をつけたスピーチになるよう意識しました。部員が私よりも当事者意識を持って手厚いサポート体制を整えてくれていて、例えば私が夜飲みに出たりすると、情報が回って「もう帰って練習しろ」って電話がかかってくるレベルで(笑)。



商工会青年部全国大会では、商工会の若手部員による地域振興発展の活動を通じた経験や成果を発表する主張大会を毎年開催しており、このたび、久喜市商工会青年部が初の快挙となる最優秀賞を獲得しました。栄冠を手にしたのは、市内で保育園を運営する竹下学さん(43)。発表の中で、青年部の活動を昼間の月と太陽との対比で例えるなど、文学的な表現が評価され、全国トップの最優秀賞を勝ち取りました。

あったのでしょうか。
竹下さん こども向けの「超巨大リアル人生ゲーム」です。部員それぞれの職業を体験でき、人生の分岐点をマスにして学べる内容となっていますが、これが大きな反響を得ました。そしてとにかく青年部の事業であることをPRしたのですが、すると祭りの出展時に来てくれる親子連れが増え、認知が広がり、仲間を誘いやすい空気につながっていききました。

ー今後の抱負をお聞かせください。
竹下さん 主張大会を通して、チームとしてすぐ良い雰囲気が出ていて、事業のブラッシュアップを図ったり、議論を深めていけたら。私も今年で43歳で、青年部もあと2年なので、若い部員たちに自分では何かをつかみ取りに行くような積極的なチャレンジを啓蒙していきたいですし、今回の経験を生かして、地域に資するような経済人になっていけたらと考えています。自分が仕事をすればするほど、生まれ育ったまちが良くなるという感覚は、とても気持ちがいいですね。



▲毎日興業アリーナ久喜で開催した超巨大リアル人生ゲーム。定員100人は数時間で満員となり、特設サイトで配布している素材も6,000ダウンロードを超えた。



3時間33分20秒〜

広報紙×Instagram

あなたの写真を広報で紹介します!

#kukimemo

今月の写真

12月中に投稿された写真の中から選びました!



【地上の星達】

@toshimitsu_sayama さん BLP 南栗橋

「#kukimemo」をつけてInstagramで投稿しよう! 詳細は市ホームページへ▶

